

アンティロープの頭上面

今度はそれがやってきた　ブルキナファソから
一本の大樹から彫りだされたアンティロープ
それを初めて見た時
大きなタツノオトシゴを連想したのだけれど
シャープなその姿を躍動させ
部屋いっぱい鼓動とともに走り込んできたな

身の丈ほどもある頭上面　三角の赤と青の文様を
その身体に皮膚のごとく蓄えて
中ほどから細く長い顎が伸びて伸びて
その上方に　二本の角は隆として生え
興にのってそれを被れば
狭い団地の一室の天井は軽くぶち破られてしまっただろう
いいじゃないか……その破れた天井の向こうに
富士を戴く武蔵野の平野が広がり
秩父や丹沢の山脈が幾層にもなって見える

足も腰も胴もお前のものを使え！
お前自身がそしてアンティロープになれ
頭ばかり　神経ばかりをすり減らし
中性脂肪と　吸収されない糖分と塩分を貯め
人生を一周してもはや腐って朽ちていくしかなかったお前が
武蔵野の平原に走りだす――

この頭上面をかぶり　自分より半歩先に顔を出したその動物の
角は天を向き　視野はこの広い平野を優に呑み込んで
山々に向かって　深夜　風のような雄叫びをあげ
帰宅の遅いサラリーマンの脇を　もたつく酔漢を一瞬でよけ
暗がり不安をいだく女性に気づかれさせず
稼ぎを優先するタクシーの鼻先を　せせら笑うように掛け抜けよう
なんだ？　あれは！

けっして正体は知られまい――それほどのスピードで
かつて走ったアフリカの草原を　小さな眼の奥に蓄えてきたのだ
この世界に好奇心とイノセンスを投影し走り続ける
溜まりにたまった豊饒さの果ての腐敗と朽ちりから
いつしか立ち直って自らのたて髪に火をつけ
その熱ささえ感じないほどの速力で　命の澱を燃焼させるのだ
どうだ　君もこの原初の遊びを　共にしてみないか！

★アンティロープ……レイヨウまたはアンテロープ。古くはカモシカと呼ばれることもあった。